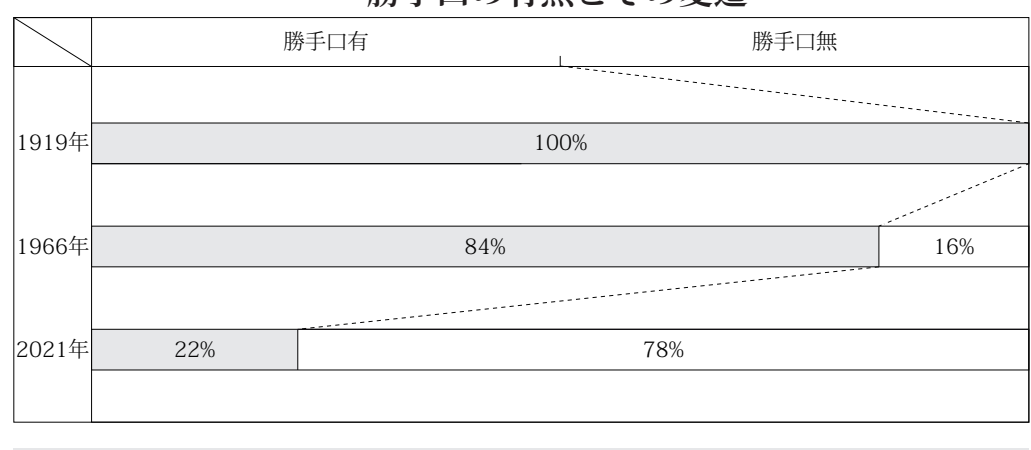
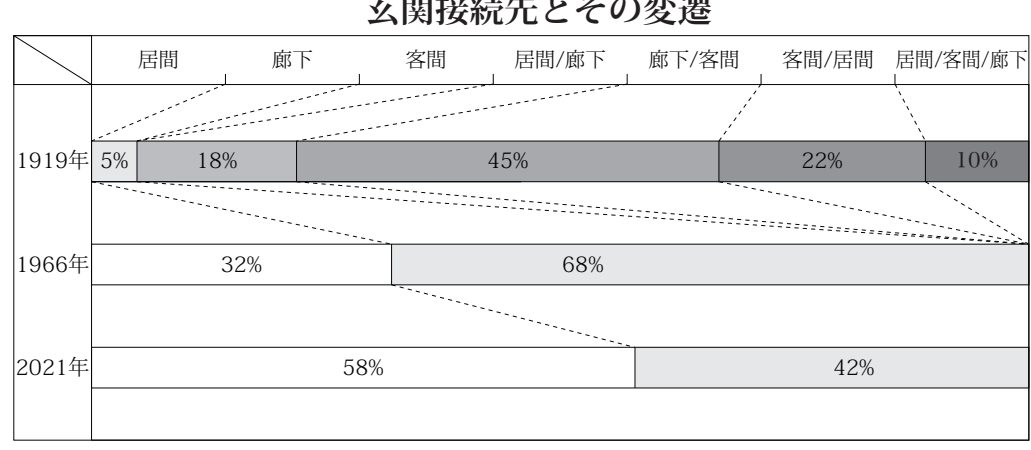
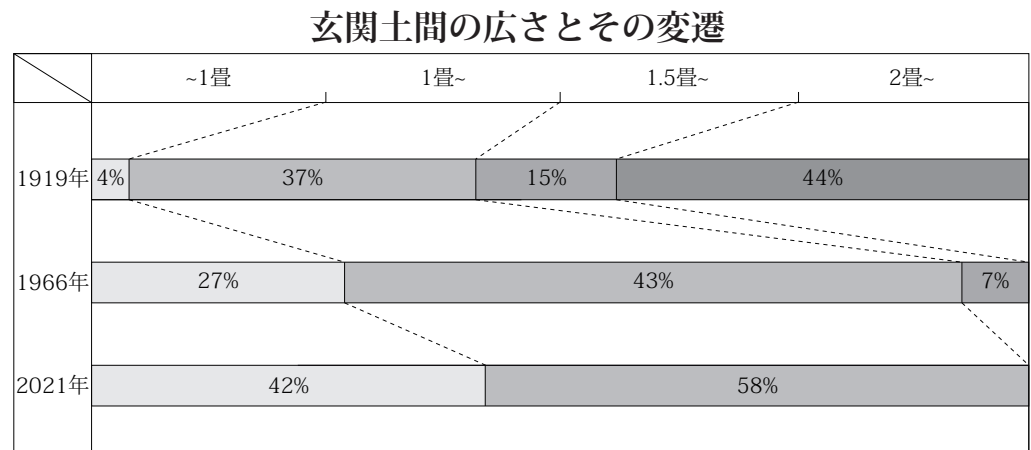
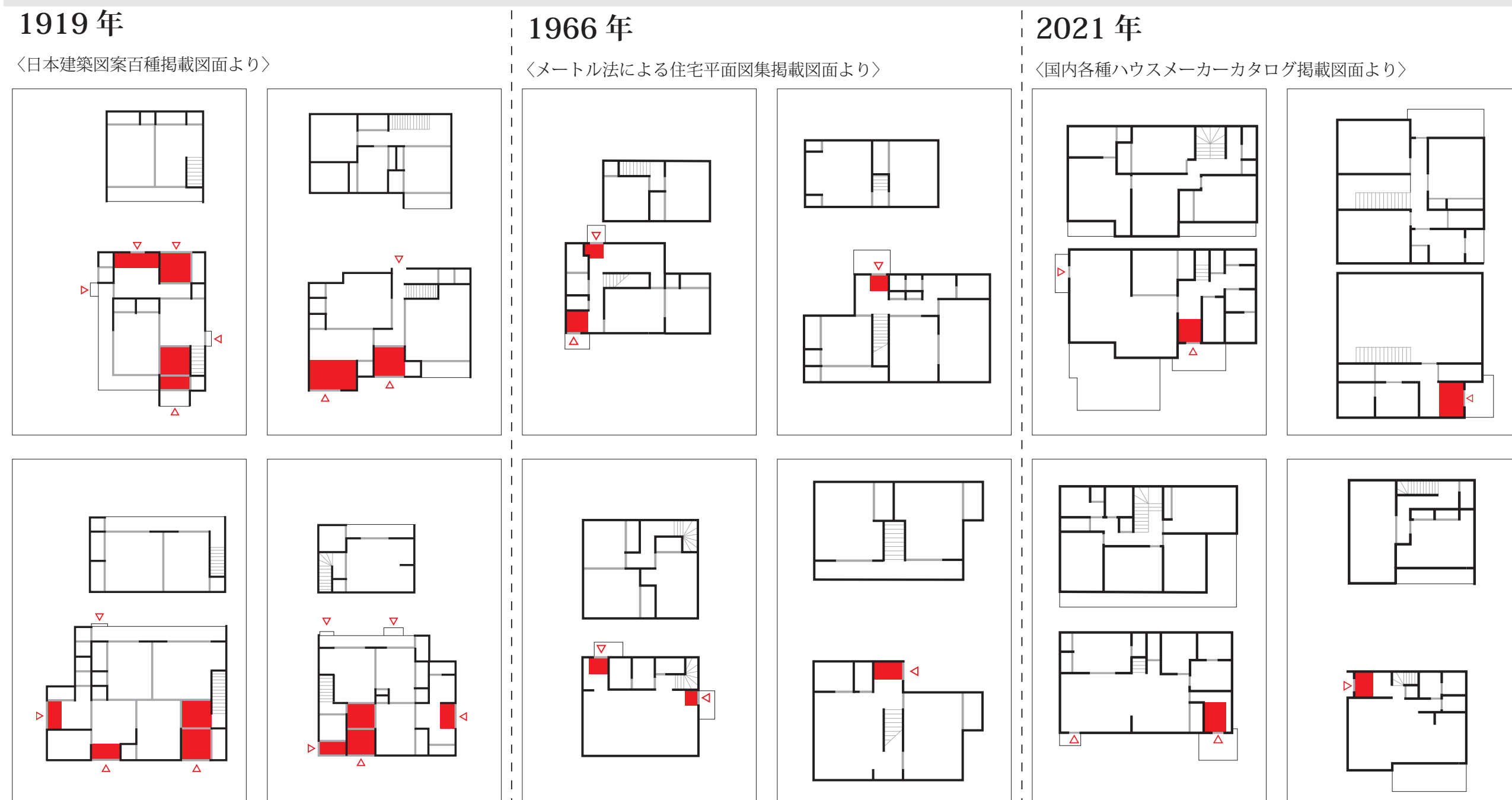


hub house

玄関に着目した多元的住居の提案

00. 背景

玄関は歴史的に都市と住まい、社会と個人の接続関係が投影される多元的な領域性を有する空間として存在してきた。しかし、現代の住まいに目を向けると玄関が単なる出入りのための開口部としての役割を担うにとどまり、今や玄関がそれまで有してきた領域性すら喪失しつつある。仮に玄関が社会と住まいの接続領域としての役割を果たすのであれば、これからの新たな住まいの玄関はどのような空間的可能性を拓くのだろうか。本提案は、昨今の玄関にみるダイレクトな社会との結びつきが、住まいの空間的豊かさの喪失につながるのではないかという問題意識の元、玄関が領域としての役割から境界としての役割へと変化したことで住まい事態の在り方に変容が見られる点に着目し、玄関の領域性を有する住まいを提示することを目的とする。



上図から導かれる考察

- ・玄関面積は大幅な縮小傾向にある。かつての玄関は接客や家政のための『領域』として機能したのに対し、昨今の玄関は住宅内を如何に閉鎖化させるかという観点より『境界』としての機能が主となっている。
- ・玄関の接続諸室の単一化、また出入口の現象により、住宅と都市の関係性の一元化が起きている。

01.〈中身〉の分析

親密圏

必ずしも性や血縁の結びつきに依らない、具体的な他者への生の配慮／関心をメディアとする、ある程度持続的な関係性。

親密圏を前景化

公共圏

人間生活の中で、他人や社会と相互に関わり合いを持つ空間。また政治・法・宗教といった社会の制度的下位領域を指す概念。

公共圏を前景化

「家族主義、個人主義に関する過去の言説をたどり、二つの概念は振り子のように揺れ動いていることがわかる。それらが示すのは、画一化された家族像を批判する相対化の作業から、さらに進み多様性の承認、また補償をするための検討の必要性である。」

「戦後日本の家族と私生活」 荒川茂則

「生活及社会観」 湯原元

「救済事業への懸念」 1914 年

「家族主義」

「家族の民主化」 1958 年

「個人主義」

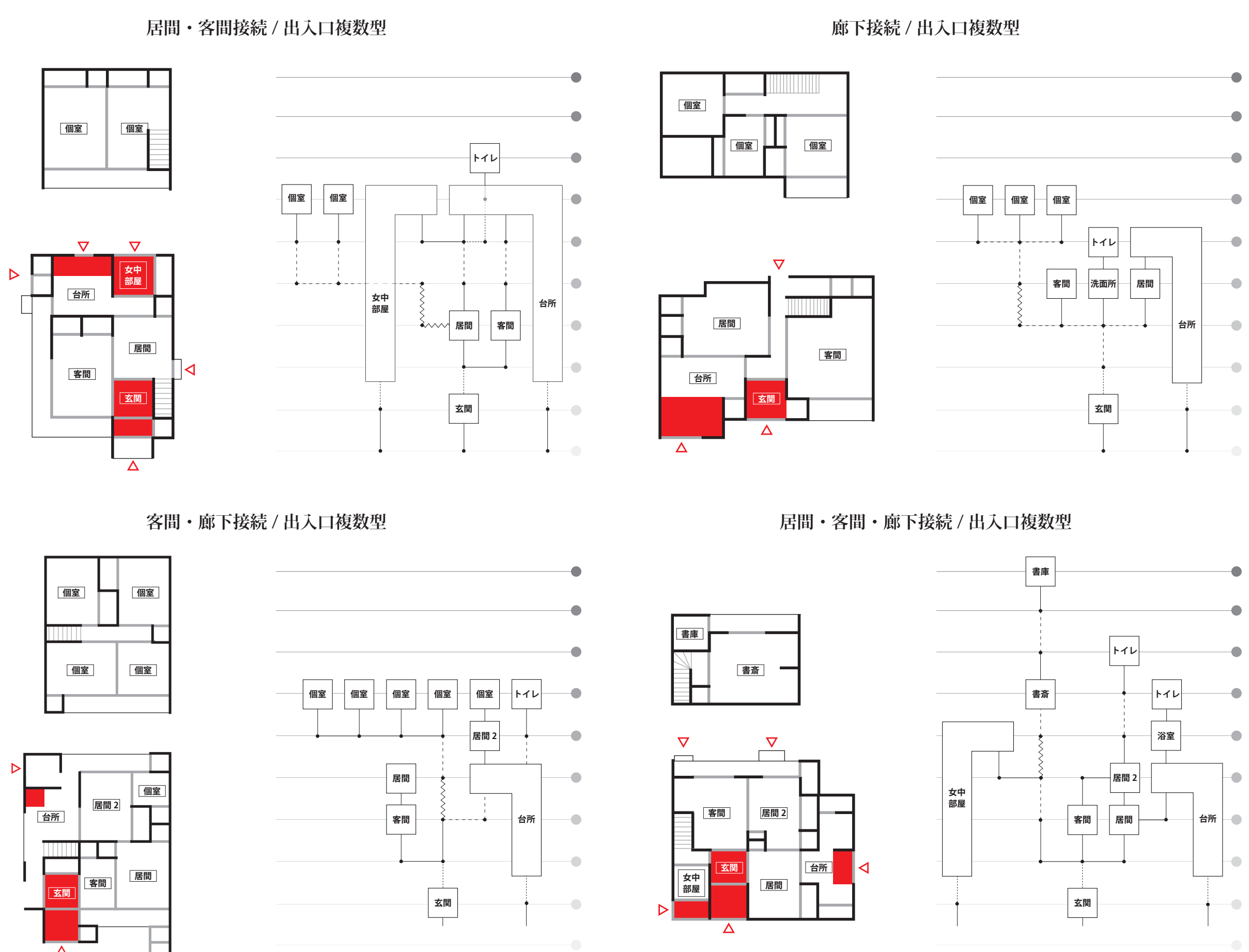
領域としての玄関を必要とした生活から、その領域を必要とせず、境界へと性質が置き換わり住居が閉鎖的な現れをしだしたという転換期だからこそ、「玄関の意義とは何なのか」という問いが浮かび上がる。またその問いは都市や住まいに関連した問いを誘発する。何故なら玄関は住宅と都市、もしくは家族と社会、また個人と社会の連続的な関係性の象徴であり、その連続において断絶が生じたはずである。先述した転換期の社会構造を捉えるために、「家族主義／個人主義」また「親密圏／公共圏」四つの概念に着目し、現代における玄関を再考する上での批評軸を明らかにするために、社会学分野における言説の整理を行う。

これらの議論が示したのは『共同体の内側での関係性』と『共同体とその外側での関係性』二つの批評軸である。

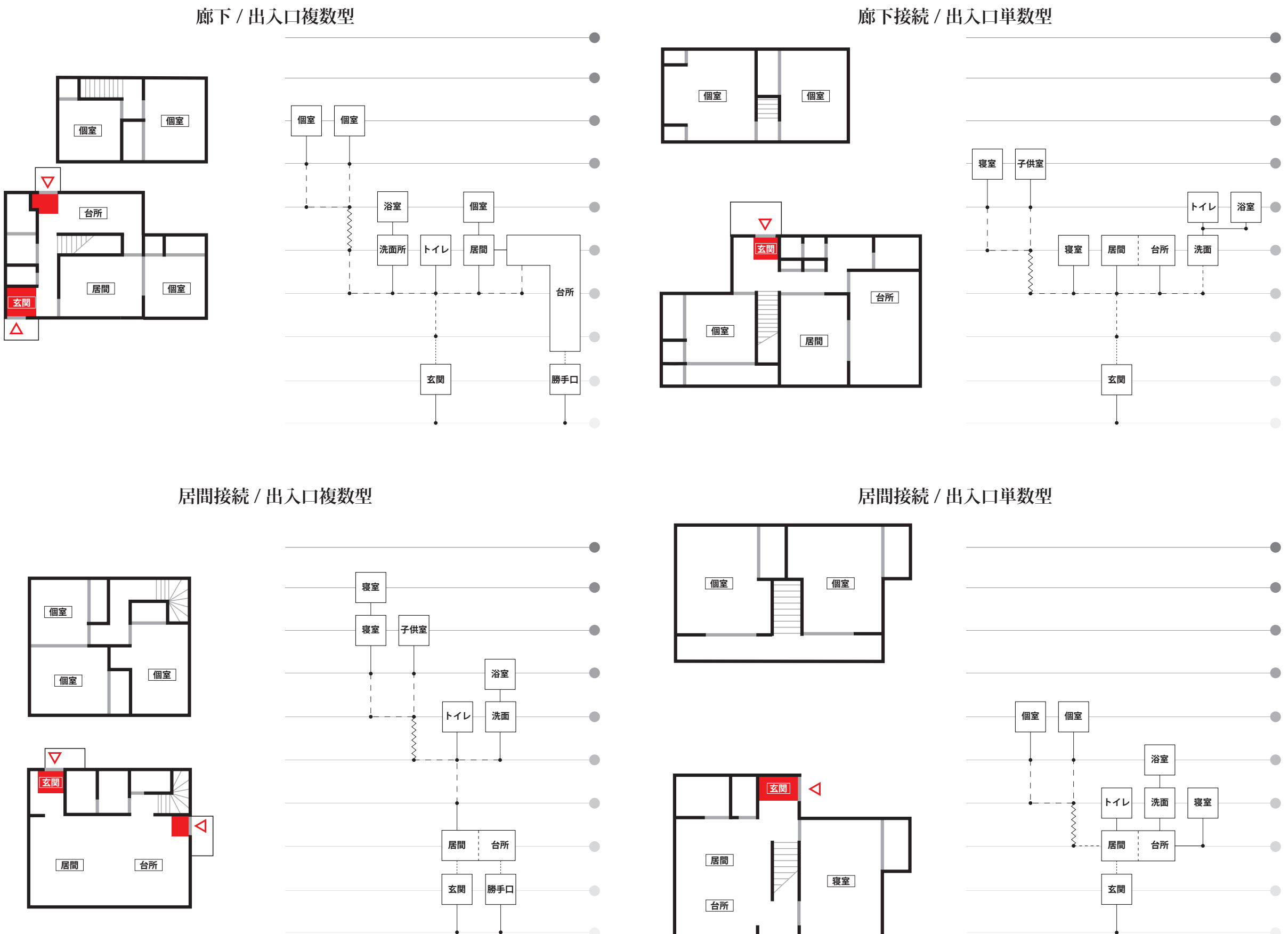
02.〈器〉の分析

先述した〈中身〉の分析に対し、住居計画学の観点から〈器〉の分析を行う。当図は玄関の接続先の状況と出入口の数から 1919 年事例を分類し、住居内諸室の相対的なプライバシーの度合いを住居内に存在する境界（下図）によってプライバシー等級が変化する、という方式にて模式化を行ったものである。

1919年事例



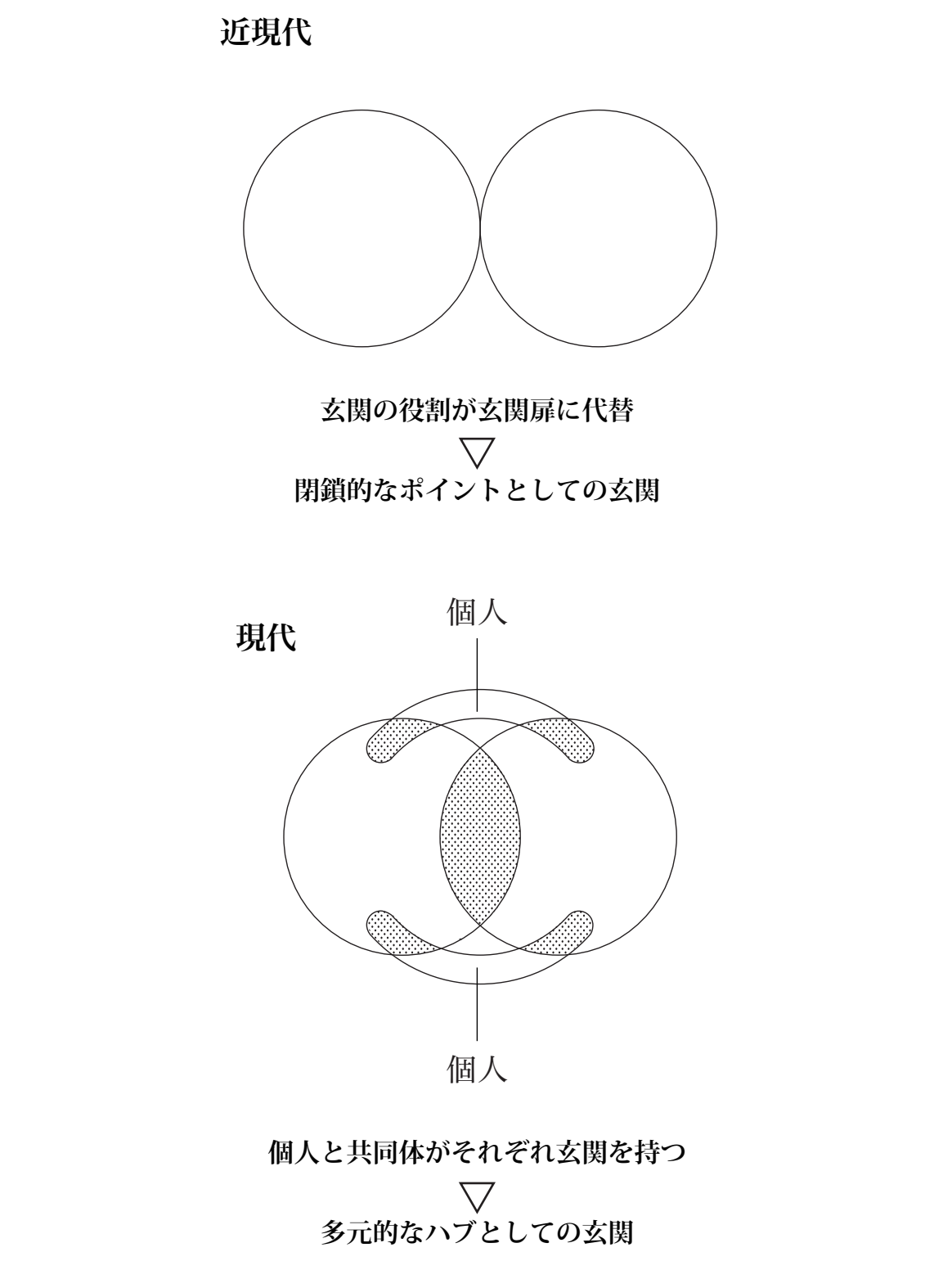
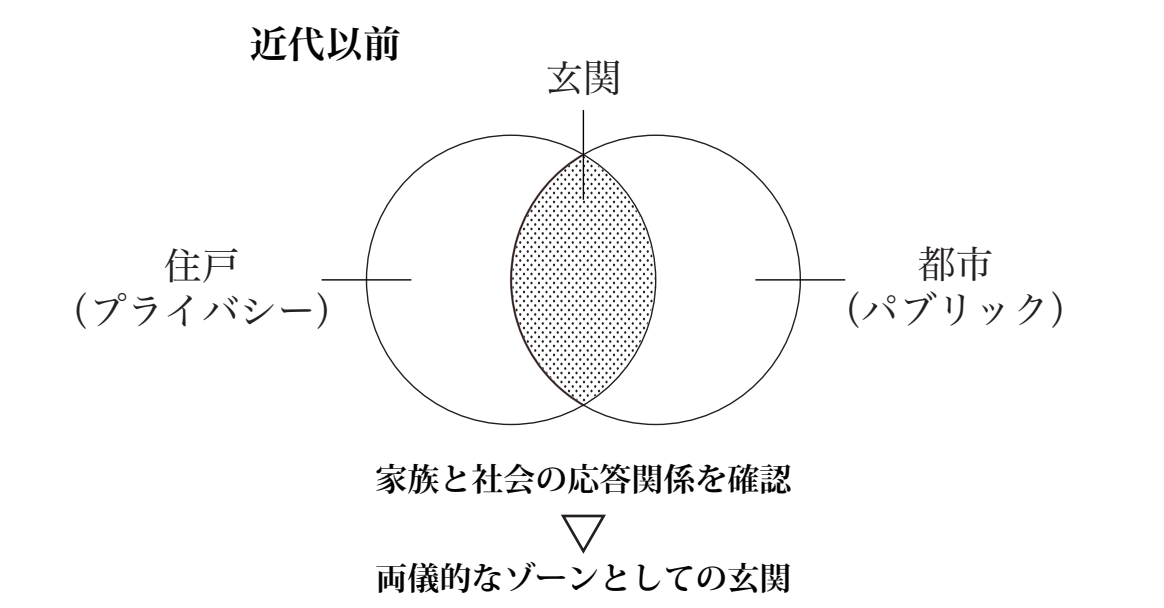
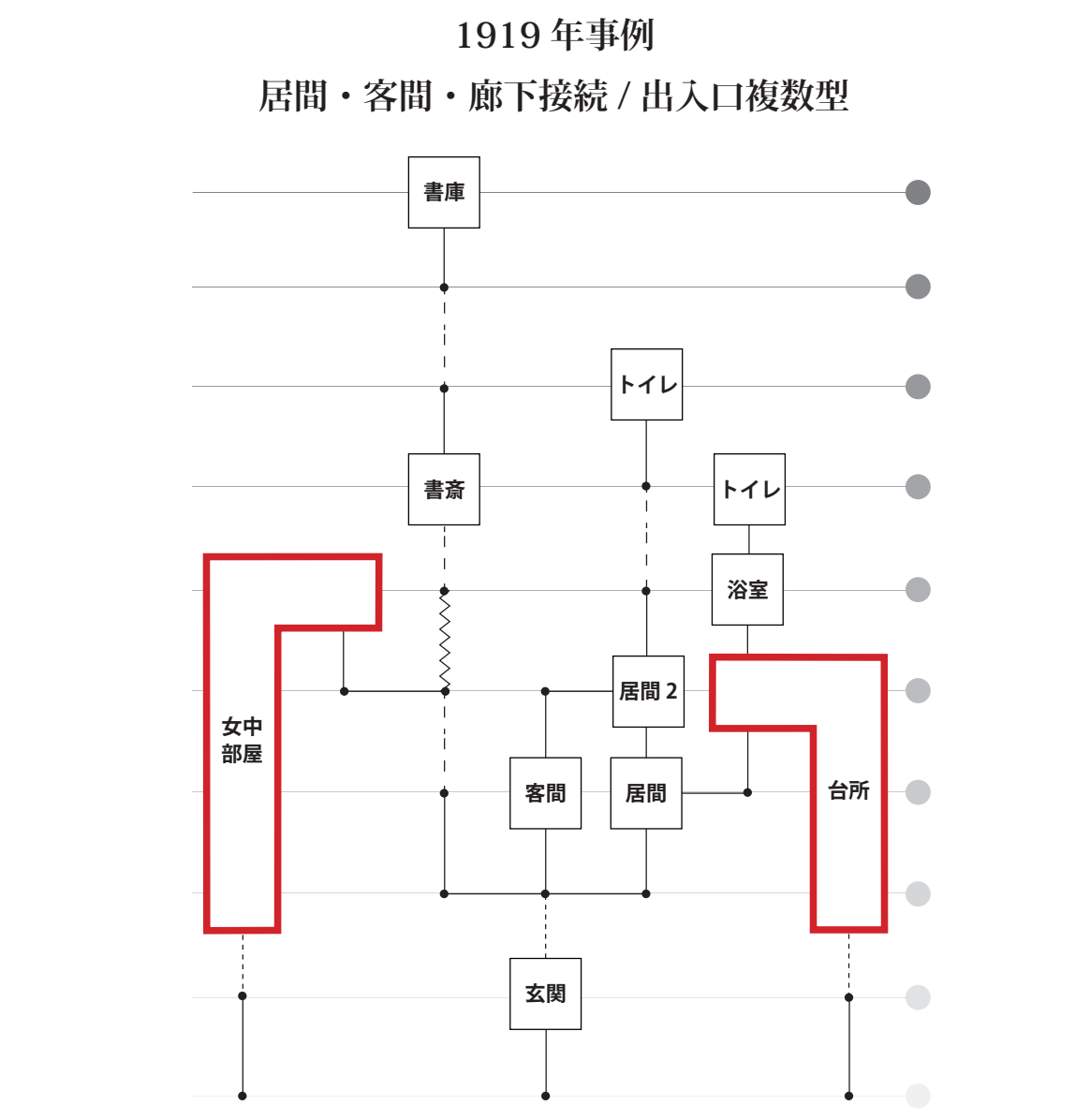
1966年事例



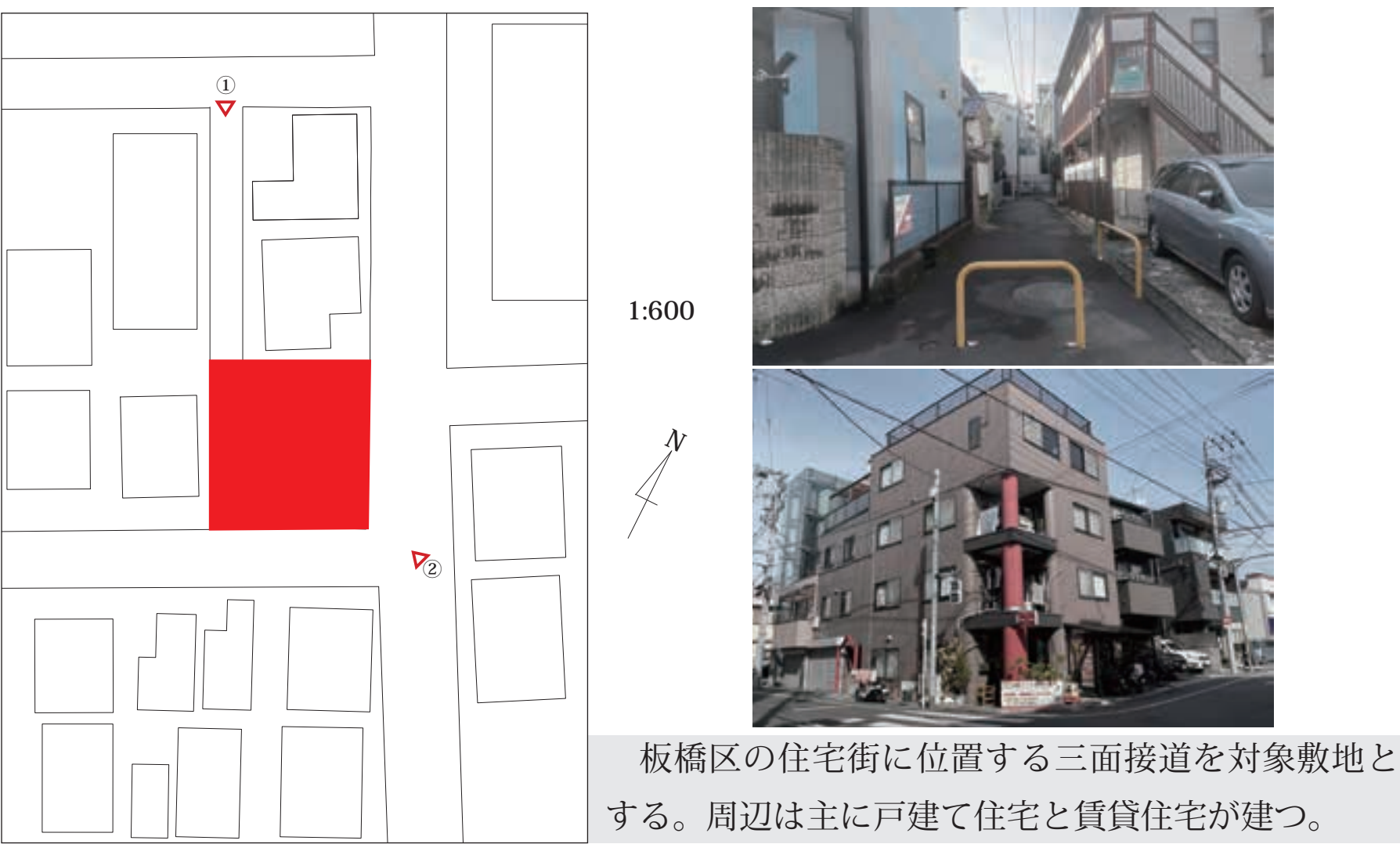
03. 手法

着目したのは、1919 年事例に多く見られた、複数のプライバシー等級に属する室である。それらを、複数の出入口を持ち、距離と境界の異なる社会との接続形態を持った『多元的な室』と定義する。

これらの分析が示すのは、個人と共同体それぞれが玄関を持つ『多元的なハブとしての住まい』の、現代社会への適応性であると考える。



04. 敷地

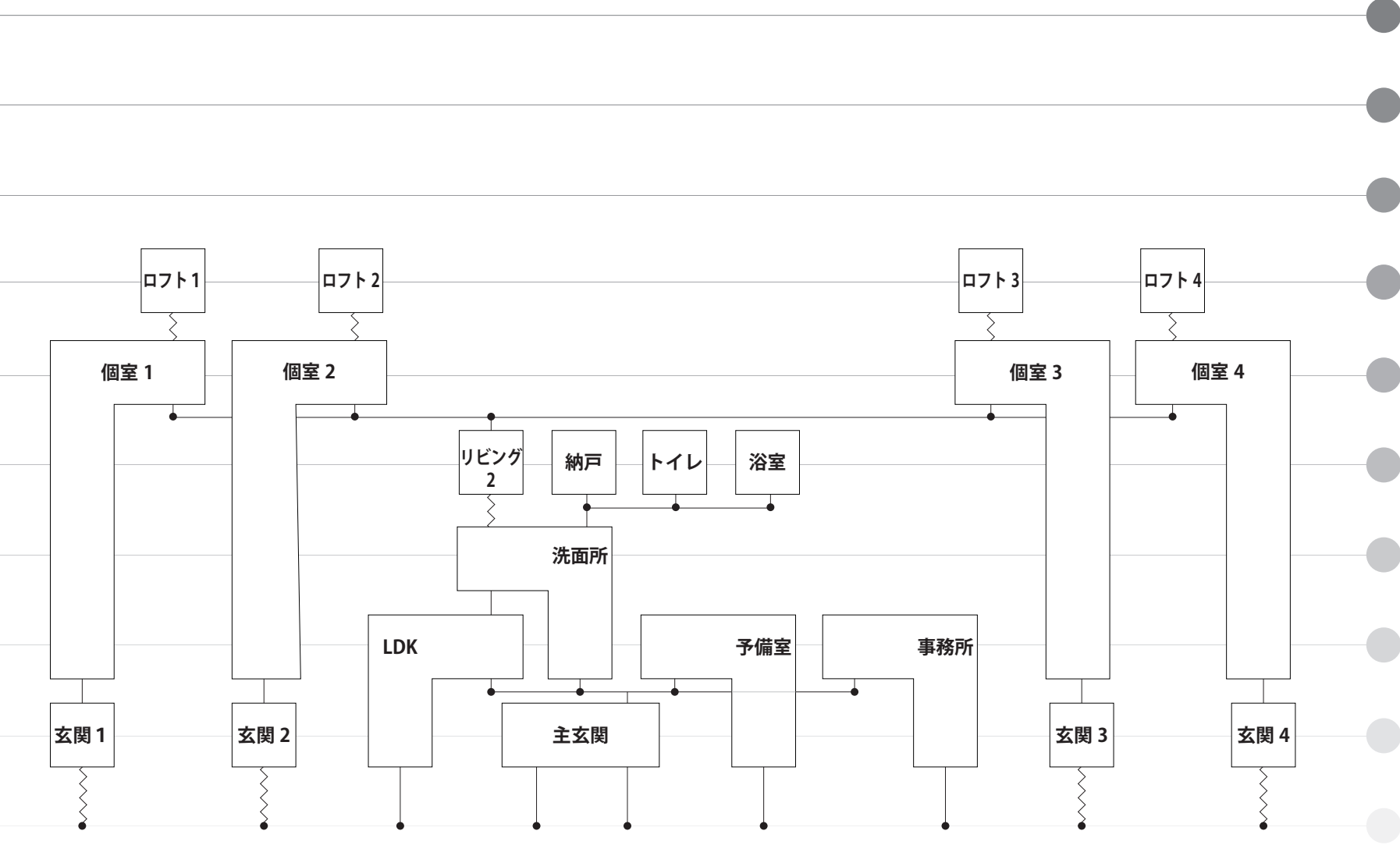


06. プライバシー等級模式図

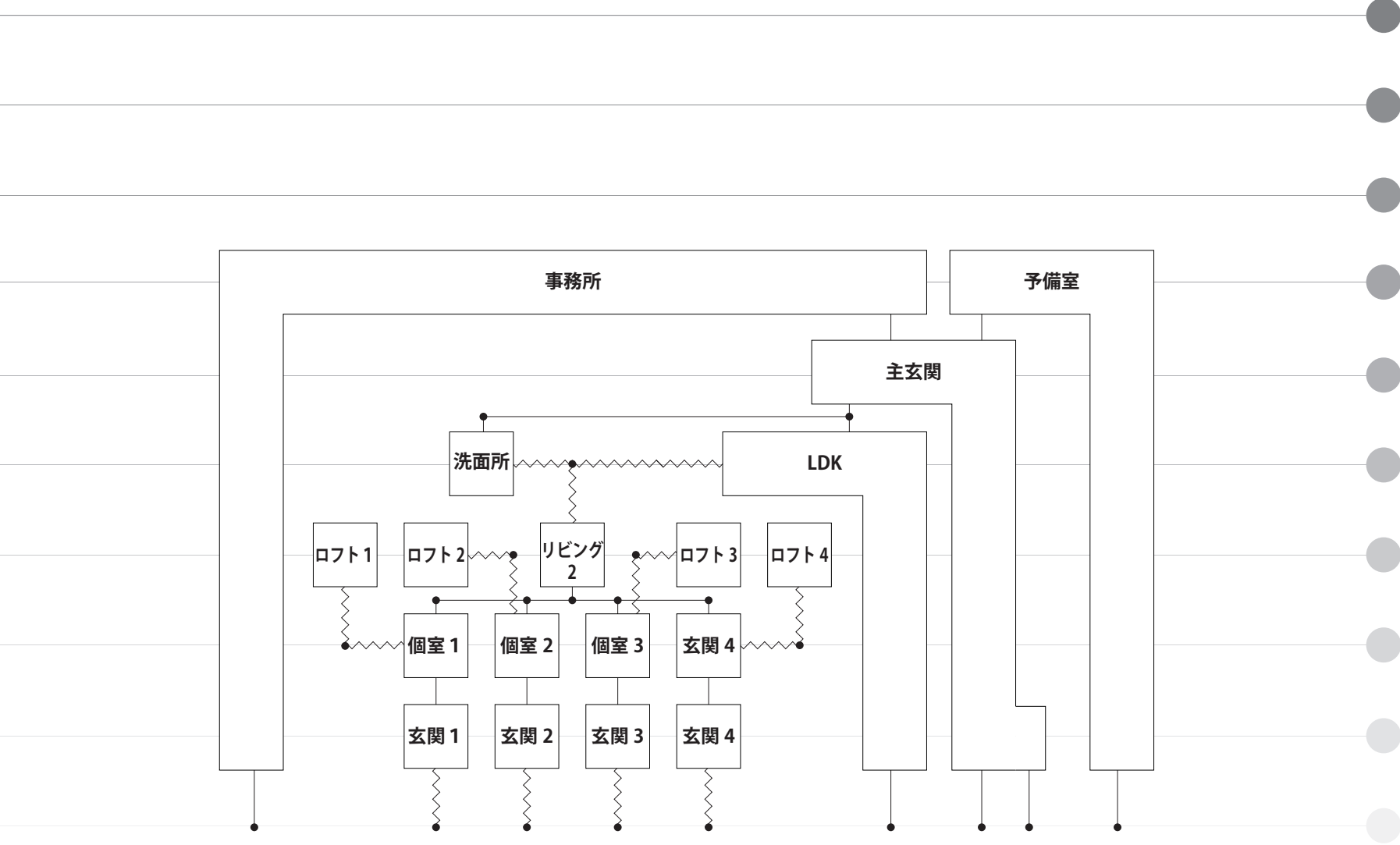
〈器〉の分析と同様に本住宅の諸室構成の模式化を行う。主玄関と個人玄関、どちらを前景化するかによってプライバシー等級は反転、つまり各玄関は住居内で最も深く、同時に最も浅い。またその決定権は各個人の動的な活動に委ねられている。



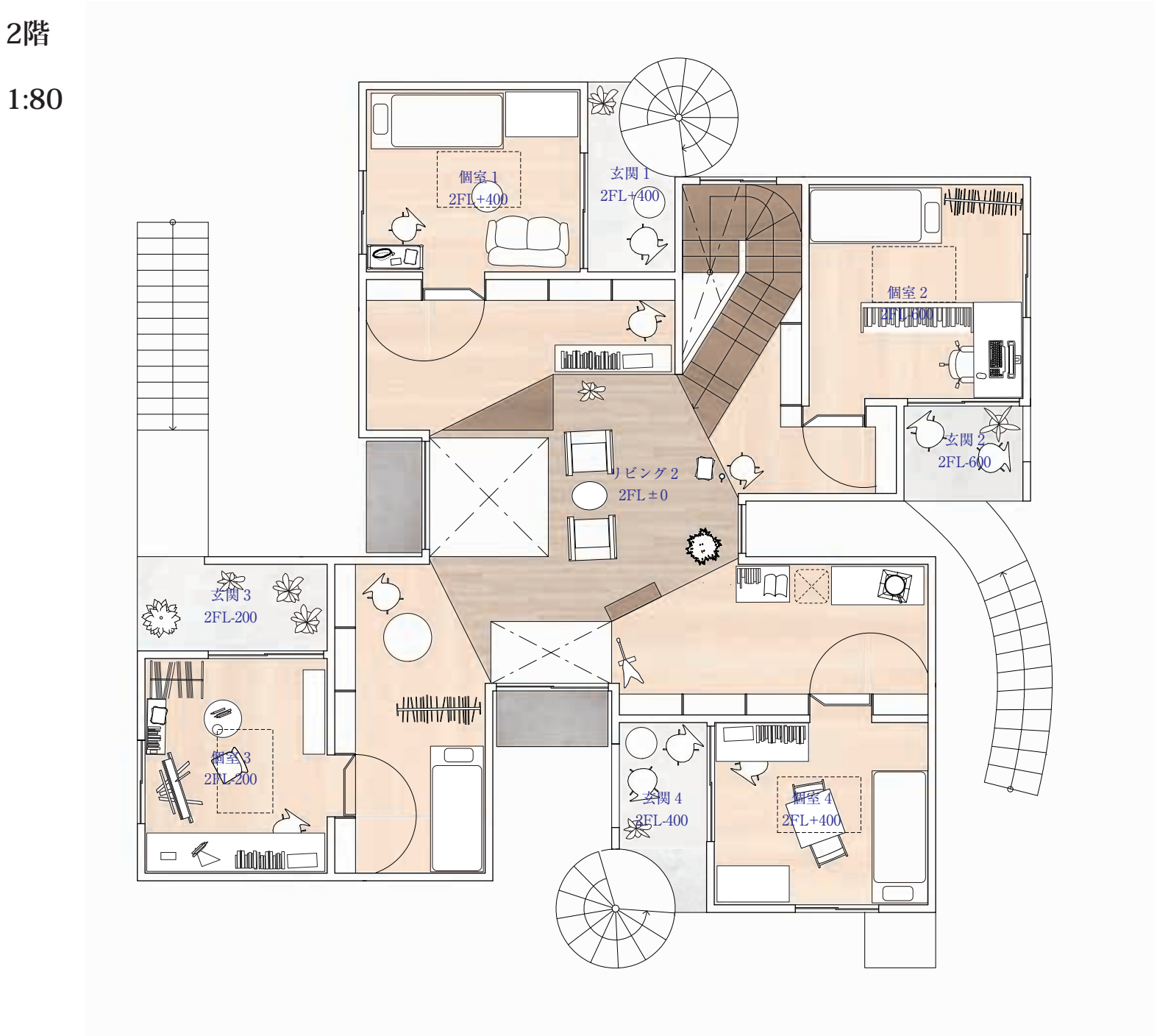
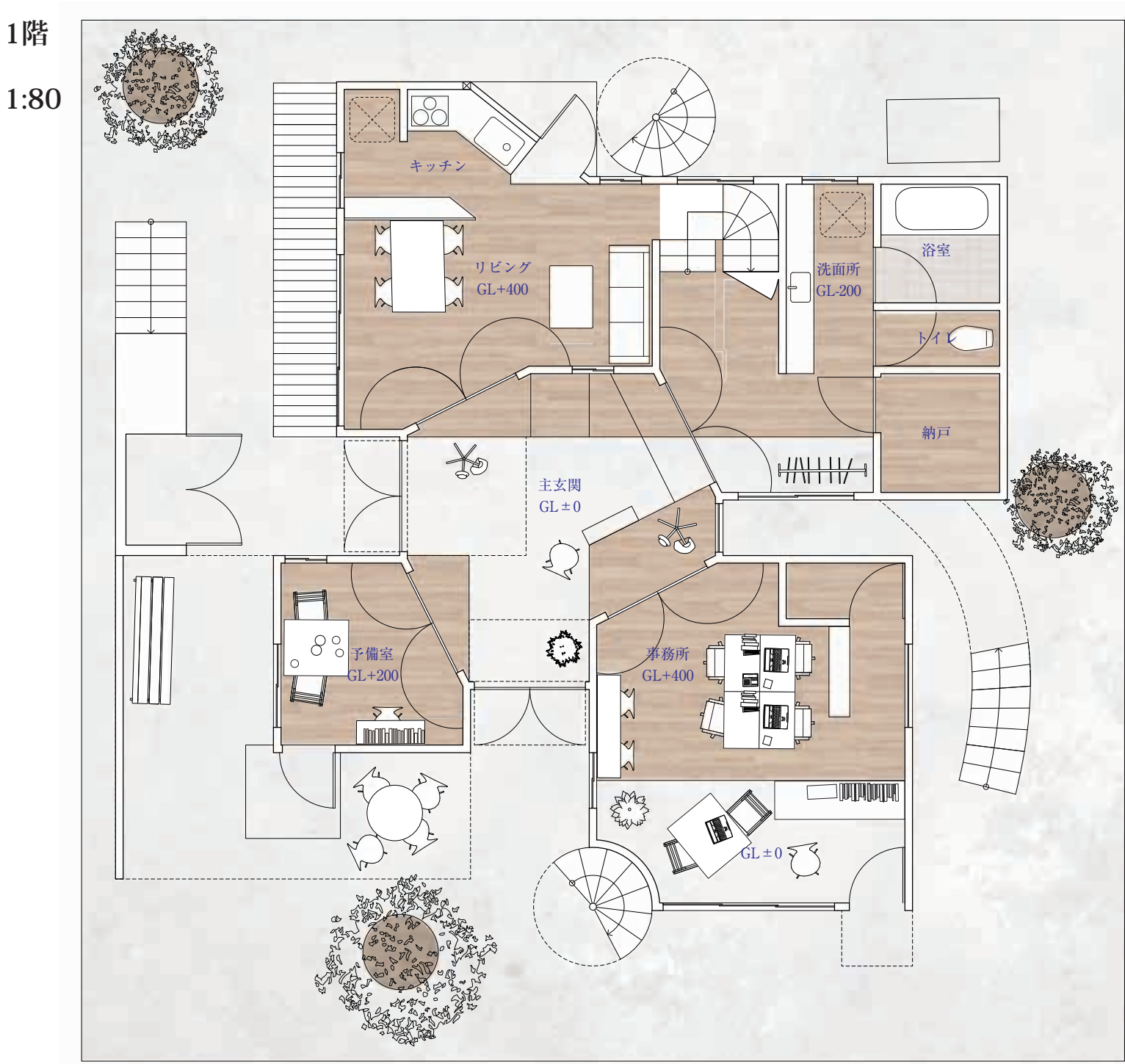
主玄関を前景化



個人玄関を前景化



07. 平面図



08. シークエンシャルな諸室の接続



主玄関はある時は都市の延長の空間である



各個室は最も深く、同時に最も浅い



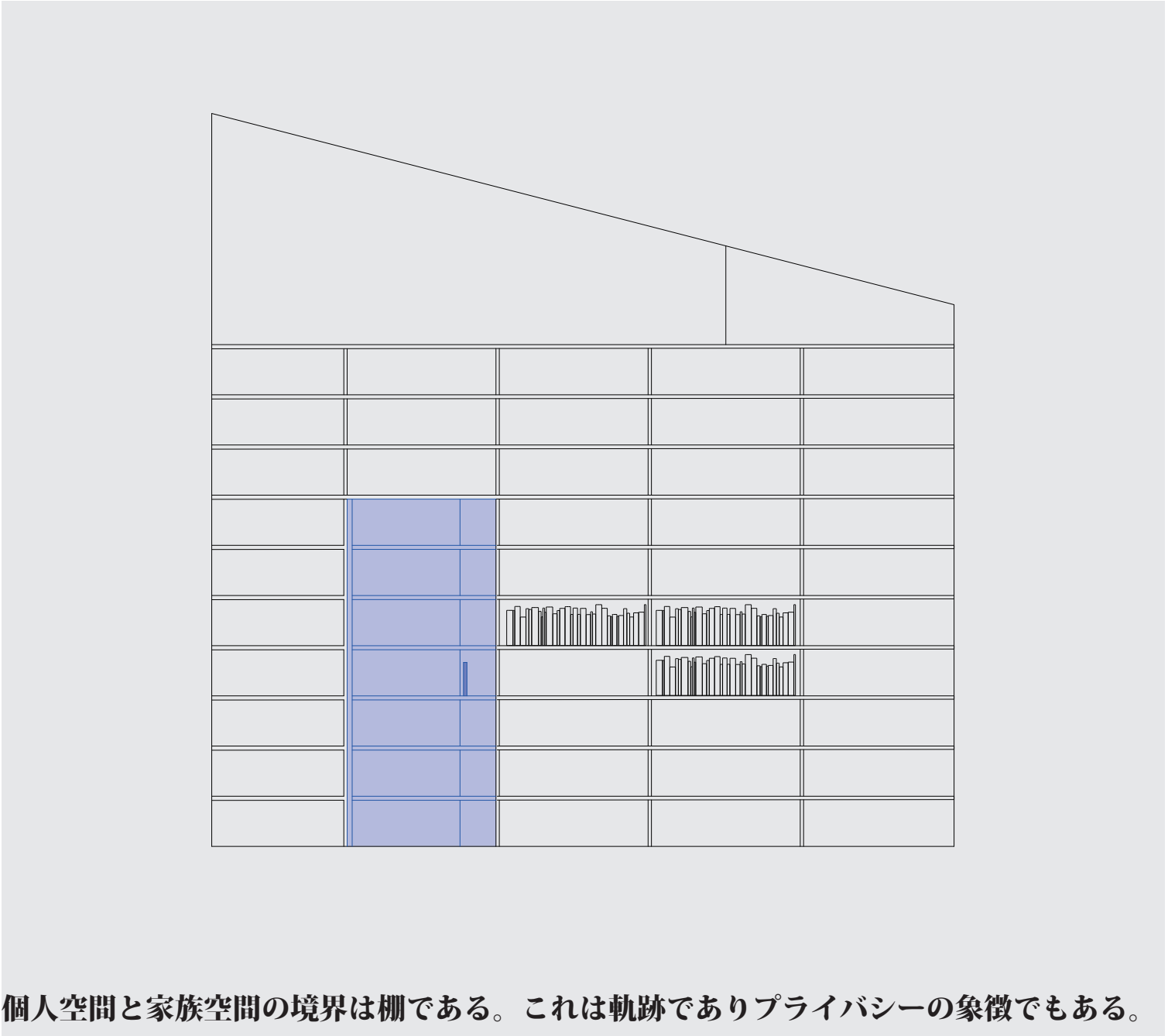
人が複数の顔を持つように、この住宅も複数の顔を持つ



主玄関はある時は都市と切り離された空間である



主玄関はある時は近隣社会との接続を果たす空間である



個人空間と家族空間の境界は柵である。これは軌跡でありプライバシーの象徴でもある。



主玄関はある時は事務所の延長上の空間である



内部階段の先は家族空間へ/外部階段は個人空間へ



2階リビングから4つの外部階段は視認可能であり、気配をささやかに伝える

09. 全体像

1:60



塔のようなボリュームは周辺住宅地の象徴となる



個人と共同体の動的な活動が都市に現れる



北面の小道と緩やかに接続する



hub house

玄関に着目した多元的住居の提案